

高等学校におけるオリンピック教育の実践研究

—大学と附属学校の連携による授業実践から—

宮崎明世

A study on the Olympic Education in high-school regular classes

— conducted with corporation of the university and attached high-school —

MIYAZAKI Akiyo

Abstract

Olympic education is the educational activities conducted for realizing the philosophies of the Olympic Charter, which is “cultivation of people who balanced whole the qualities of body, will and mind and build a peaceful society”.

The purpose of this study was to develop a unit plan of Olympic education for senior high-school students, conduct it in regular classes of theory of physical education, and examine the effects on students learning. The subjects were first-year students of a senior high school affiliated with a university. We asked them what subject matters of Olympics were interesting, and chose the following best three topics; “The Ancient Olympic Games”, “Japan and the Olympics”, and “The Olympics and Fair play”. We placed “What are the Olympic Games?” in the beginning of the unit plan. And after the three lessons on most interesting topics “Olympic Values” was lectured by an Olympian who is a faculty member of the university. We discussed with a faculty member who is a specialist of Olympic studies for making each lesson plans and implemented them for the first grade of high-school students. After each class we asked the students to fill in a questionnaire to examine the effects on their learning.

1. 緒言

平成 23 年 6 月スポーツ振興法が改正され、スポーツ基本法として公示された。その目的は、「スポーツに関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与すること」（文部科学省 2011）とされている。この法律では基本理念の中で、スポーツが青少年に、身体だけでなくその人間形成にも大きな影響を与えること、国際

平和に寄与するものであること、不当な差別やドーピングの防止への認識を高めることなどを挙げている。日本における体育・スポーツ教育の歴史の中で、スポーツの教育的価値はこれまでも認められてきたところである。スポーツ基本法の成立によってさらなる価値の追求とその普及、振興が求められることとなり、すべての国民が生涯にわたってスポーツに親しみ、その教育的価値を享受するために学校における体育・スポーツ教育の果たす役割は大きく、社会的な要求は高まるものと考えられる。

これまで中学校の学習指導要領では「体育に関する知識」の中にオリンピックの記述はなく、

現在の社会におけるオリンピックの意義を考えると、小中高等学校の学習指導要領におけるオリンピックに関する記述は極端に少ないものであった(友添 2006)。学習指導要領の改訂によって中学校では、体育分野において「体育理論」が位置づけられ、3年間で3単位時間学ぶこととなった。その中の「3文化の中のスポーツの意義」に「国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割」という内容が含まれ、オリンピックなどの国際的なスポーツの大会が果たす文化的な役割について学ぶことが義務付けられた。また、高等学校学習指導要領では、「1スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴」の中で、「ウー オリンピックムーブメントとドーピング」として、国際親善や世界平和に貢献する現代のスポーツの代表的な例としてオリンピックムーブメントを挙げ、フェアプレイの精神に反するドーピングのことについてもあわせて学ぶこととしている。このように学習指導要領においても、時間数は少ないとはいえ、体育の中でオリンピックについて学び、オリンピックを通して学ぶことが義務付けられたのである。

オリンピック教育は、「平和な社会の構築に尽くす調和的全人の育成」というオリンピック憲章の理念実現に向けて展開される教育活動である。国際オリンピック委員会 (IOC) は、1961年にオリンピック教育のセンターとして国際オリンピックアカデミー (IOA) を設立した。IOAは近代オリンピックの創始者であるクーベルタンの思想の普及に貢献しており、同時に学校や大学、一般社会におけるオリンピズムの啓蒙を進めている。IOAのオリンピック教育テキスト (Binder 1995) では、オリンピック教育のねらいとして次の4点を挙げている。1) 世界中の若者たちが自分たちの生活の中でオリンピック精神を実現していくこと、2) オリンピックの神秘性をあらゆる地域、文化の中で喚起すること、3) オリンピックのような特別なイベントを通して卓越性を追求するというメッセージを具現化すること、4) 様々な重要課題(環境問題、女性の役割、世界的な闘争やその解決、民族感情と否寛容の抑制、フェアプレイの推進と倫理観の高揚、知性・身体並びに心の統一性の再強調)をオリンピック研究プロジェクトに

位置づけること。このような教育を通しての全人教育並びに、オリンピックそのものを理解し、オリンピズムを継承する次の世代を育てることが目的であると考えられる (Binder 1995)。IOAは教育者のためのテキストを出版しており、これまでも各大会の開催組織委員会を中心に様々な形で、オリンピック教育が行われてきた。学校における通常の授業の中でオリンピック教育を行うことは、すべての国民が教育を受ける機会を保障されるという点で意義がある。なかでも先述の学習指導要領にも定められているとおり、「体育理論」でオリンピック教育を取り上げる必要があり、そのモデルとなる指導案づくりが求められる。

筑波大学ではこれまで、附属11校との連携により、さまざまな形でオリンピック教育を展開してきた実績がある。このような背景から2010年12月、IOCの承認を受け、オリンピック教育プラットフォーム (CORE: Center for Olympic Research and Education) が設立された。COREはスポーツを通じた国際平和を実現するため、国内外のオリンピック教育を推進していくことを目的としている。COREの活動として、初年度には大学と附属学校をつないだ組織づくりを行い、研究会を開催した。主たる活動として、中学校での前広島市長による講演「オリンピックと国際平和」の開催、高等学校での大学教員による出前授業などを行った。本研究ではその活動の一環として、大学と附属学校との連携によるオリンピック教育実践のモデルの作成、および教育の推進という目的のため、まず高等学校の通常の授業の中に位置づけられている、体育理論の授業で実現可能な指導案を作成し、授業を実践した。

2. 目的

本研究の目的は、学校教育、特に通常の体育理論の授業の中で活用できるオリンピック教育のモデルとなる指導案を作成すること、その指導案をもとに授業を実践し、授業の成果および今後の展開のための課題について明らかにすることである。

3. 方法

1) 対象

筑波大学附属高等学校1年生1クラス(男子20名、女子20名)に対して行った、「体育理論」の授業5単位時間(50分/時間)を対象とした。通年で週1時間(1単位約30時間/年)行なわれる「体育理論」の授業のうち5時間分をこの単元に当てた。授業の実施時期は2011年2月であった。

2) 授業内容の決定と指導案の作成

授業内容を検討するに当たり、授業前に質問紙調査を行った。生徒の興味関心の対象を明らかにするため、興味のある内容について選択肢の中から2つを選択させた。選択肢は「未来と結ぶオリンピックーオリンピック学習読本」(真田他2008)の内容から作成した。1時間目は導入として、オリンピズムを中心に「オリンピック競技会」について学ぶこととした。学習内容に関する調査の結果から、上位3項目を3時間で構成し、最後の1時間は大学の教員であるオリンピック(河合季信准教授)に講義を依頼した。講義の内容は「オリンピックの価値」- Olympic Values - とした。

指導案の作成にあたり、学習すべき内容について大学の研究者と協議を行ない、それぞれの内容について指導案を作成した。

3) 授業の実施と授業後の質問紙調査

作成した指導案に従って実際に授業を行った。授業者は、オリンピックに関する教育を専

門としていない高等学校教員経験21年の保健体育科教員であった。授業での成果を明らかにするために、毎時間授業終了後に自由記述による質問紙調査を行った。質問は授業を受けて「印象に残ったこと」、「疑問に思ったこと」、「もっと知りたいこと」をそれぞれ記述させた。

4) 授業後(後期課題として)のレポート作成

単元終了後、後期の課題として、オリンピックの授業を通して「もっと知りたいと思ったこと」から一つを選んで各自に調査させ、レポートを作成させた。

5) 授業の成果と今後の課題の検討

3)で得られた質問紙調査の結果、4)のレポートの内容から授業の成果と課題について検討し、明らかにした。

4. 結果と考察

1) オリンピック教育のモデル指導案の作成

(1) 単元計画

授業前の生徒に対する質問紙調査の結果を表1に示した。この中で上位3つにあげられた「古代オリンピック」、「オリンピックとフェアプレイ」、「日本とオリンピック」を取り上げ、単元を構成した。全5時間の単元計画を表2に示した。

(2) 指導内容と授業の様子

実際に行なった授業の詳細を表3に示した。

第1時では単元全体の導入として、オリンピック競技会について、現在の姿、歴史とその

表1 オリンピックについて「学んでみたい」項目 (n = 40 2つ選択)

タイトル	内容	数	%	順位
古代オリンピック	古代オリンピックはなぜ始まったか、大会優勝者に与えられたもの、理想的な身体を求めて、古代から現代に受け継がれるレガシー	20	50	1
オリンピックとフェアプレー	オリンピックで求められるフェアプレー、友情と尊敬、アンチ・ドーピング	15	37.5	2
日本とオリンピック	東京オリンピック(1964)、札幌冬季大会(1972)、長野冬季大会(1998)、活躍した選手、オリンピックの遺産	14	35	3
環境とオリンピック	オリンピックと環境問題、オリンピックの環境対策、環境保全とJOC	13	32.5	4
オリンピックが目指すもの	オリンピックの理念、オリンピックと文化、オリンピックと教育	8	20	5
近代オリンピックの歩み	創始者クーベルタンの考え、嘉納治五郎とオリンピック、オリンピックの国際的な広がり、オリンピックの課題	8	20	5
障害者のスポーツとパラリンピック	障害者のスポーツ大会の始まり、障害者のスポーツを支える組織、パラリンピックの規模と競技、活躍した選手	2	5	7

意義を学ばせることを目標とした。単元の開始にあたり、冬休みの宿題として「祖父母、親の世代の記憶に残るオリンピック」について家庭で調査させた。授業の中で世代の特徴について話し合った結果、親・祖父母の世代では東京オリンピック（1964年）が最も印象に残っていることが明らかになった。オリンピックが4年に1回開かれる意味（オリンピックアード）、夏季大会と冬季大会があり、現在の形になるまでの経緯を学んだ。行われている競技についてこれまでの変遷や種目決定の意図を学習し、今後の展望や希望について意見交換を行った。オリンピック憲章を中心にオリンピズムについて理解させた上で、オリンピックを行う意義について改めて考えさせた。

第2時は日本で行われた大会について学び、日本とオリンピックの関わりについて考えることを目標とした。これまでに日本で行われた大会について、東京オリンピック（1964年）を中心に、活躍した選手、有形無形のオリンピック・レガシー（後世に残したものを）身近なところから考えさせた。高校1年生では親の世代が東京大会の時に子どもであり、生徒本人は東京大会についての知識はほとんど持っていなかった。現在では当たり前のように使用されている施設や交通網、テレビなど有形のレガシー、スポーツの一般化や健康志向などの無形のレガシーについて学習させた。また、長野大会（1998年）での「一校一国運動」や、2016年東京大会への招致活動の学習を通して、オリンピックとの関わり方やこれからの招致のあり方を考えさせた。

第3時では、事前調査で最も関心の高かった

「古代オリンピック」について学んだ。この授業では、古代から現在まで受け継がれるものと変わったものについて学習することで、現在のオリンピックのあり方について考えさせることを目的とした。授業では、古代オリンピックがなぜ始まったのか、オリンピックが「平和の祭典」と呼ばれることの意味について学習し、現在のあり方を考えさせた。また、古代オリンピックの理念や当時行われていた競技種目について詳しく知ること、現在に至るまで変わらないもの、変わってきたものとその理由を学習した。現在も行われている種目（走幅跳ややり投げ）の現在との違い、勝者に送られたオリブの葉冠などについての関心が高かった。

第4時ではオリンピックで求められるフェアプレイについて学習した。学習を通して日常生活にもフェアプレイの精神を広げていくことについて考えさせることを目的とした。ユネスコ国際フェアプレイ賞の日本人の受賞や、フェアプレイに関するエピソードを紹介した。また、アンチドーピングの活動や精神を学習させたが、ドーピングやそれに対する取り組みについては別単元を設定した。フェアプレイの精神の広がりとして、オリンピックの社会貢献の事例をあげ、有森裕子氏のカンボジアでの社会貢献活動「Heart of Gold」の活動を、映像を含めて紹介した。これらの学習を通して、フェアプレイの精神を日常生活に生かすにはどのようにすべきかを考えさせた。

第5時はアルバールビル・オリンピック（1992）ショートトラック銅メダリストの河合季信・筑波大学准教授に講師を依頼し、オリンピックの3つの価値（Excellence, Respect,

表2 単元計画の詳細

時間	授業日	項目	内容
1	2011/1/19	オリンピック競技会とは	オリンピック競技会とは、オリンピックアード、競技種目
2	2011/1/26	日本とオリンピック	日本で行われたオリンピックと活躍した選手、オリンピック・レガシー
3	2011/2/2	古代オリンピック	古代オリンピックの始まり、古代オリンピックから受け継がれるもの
4	2011/2/9	オリンピックとフェアプレー	オリンピックで求められるフェアプレー、友情と尊敬
5	2011/2/23	オリンピックの価値 (Olympic Values)	河合季信・筑波大学准教授のお話し "excellence", "respect", "friendship"

Friendship) について学習させた。6人のオリンピック人への「オリンピックによってあなたの人生はどのように変わりましたか」というインタビューを通して、オリンピックが与える影響について考えさせた。オリンピックによる講義であることから、生徒は興味をもって授業に臨み、授業後に質問も多くなされた。授業時間が50

分と短く、講師自身についての話には及ばなかったため、生徒からはオリンピックでの経験や選手村の様子など、選手しか知り得ないような具体的な情報が知りたかったという意見が寄せられた。

事前調査では「古代オリンピック」についての関心が最も高く、生徒の半数が学んでみたい

表3 指導計画の詳細

1/19 (第1回)	オリンピック競技会とは	ねらい:オリンピック競技大会の現在の姿と歴史を学び、オリンピックの意義について考える。
	導入	オリンピック競技会について:最近のオリンピック、いつどこであった?オリンピックアードとは
1/26 (第2回)	展開	・記憶に残るオリンピック:親・祖父母の世代の記憶に残るオリンピックについての調査(冬休みの宿題)について話し合う ・オリンピックで行われる競技種目について:どんな競技が行われているか ・オリンピックの組織:IOC(国際オリンピック委員会)について、組織の目的、NOC(JOC)の役割 ・オリンピズムとオリンピックムーブメント:オリンピック憲章について、オリンピックムーブメントにはどのようなものがあるか
	日本とオリンピック	ねらい:日本で開催されたオリンピックについて学び、日本とオリンピックの関わりについて考える。
2/2 (第3回)	導入	親・祖父母、それぞれの世代の記憶に残るオリンピックがある。過去に日本で行われた大会はどんなもので、私たちに何を残したのだろうか。
	展開	・これまで日本で行われた大会について(東京、札幌、長野大会):活躍した選手、有形無形のオリンピックレガシー「オリンピックが開催されたことで、日本にどんな影響があったと思いますか。具体的にはどんなものが残されたか知っていますか。」 ・オリンピック招致活動:2016東京への招致活動について、オリンピック招致の今後「東京にオリンピックを招致すべきだと考えますか」
2/9 (第4回)	古代オリンピック	古代オリンピックについて学習し、現在まで受けつがれていることからオリンピックのあり方について考える。
	導入	オリンピックが残したレガシーには有形無形さまざまなものがあつたが、近代オリンピックが模範とした古代オリンピックはどのようなもので、今に引き継がれているものはどんなことでしょうか
2/23 (第5回)	展開	・古代オリンピックの始まり:エケイリア(休戦協定)、「平和の祭典」と呼ばれる理由 ・古代オリンピックの競技:どんな競技が行われていたか、幅跳、やり投げ、パンクラチオン、戦車競走など ・優勝者に与えられたもの:オリーブの葉冠とその意味 ・古代オリンピックから現在に受け継がれるレガシー:平和思想、オリンピックそのものと選手への賞賛、不正防止に対する努力(1200年間続いた原因の一つ)
	オリンピックとフェアプレイ	オリンピックとフェアプレーの関わりについて理解し、スポーツの世界だけでなく日常生活にもフェアプレーの精神を活用できるようにする。
2/23 (第5回)	導入	古代オリンピックが1200年間も続いた理由の一つに不正行為防止の取り組みがあつた。現在に引き継がれる考え方はどのようなものだろうか
	展開	・フェアプレーとは何か、オリンピックで求められるフェアプレーとは:決められたルールを守って正々堂々とプレイすること ・ユネスコ国際フェアプレー賞、日本人の受賞者:メキシコ大会サッカー代表、山下泰裕 ・フェアプレイとして讃えられる事例:1936年陸上競技棒高跳びの「友情のメダル」 ・アンチドーピング:ドーピングとはどんな行為か、なぜいけないのか ・フェアプレイ精神の広がり:オリンピックの社会貢献・国際貢献の事例 有森裕子氏のHeart of Goldの話 ・フェアプレイの精神を日常生活に生かすにはどうしたらよいだろう。どんなことができるか。
2/23 (第5回)	オリンピックの価値(Olympic Values)	オリンピックメダリストから“Olympic Values”に関する話を聞き、オリンピックの3つの価値「卓越」「友情」「尊敬」について自ら考え、日常に活かす。
	導入	河合季信先生の紹介:アルペールビル(1992)オリンピック、ショートトラック5000mリレー銅メダリスト
2/23 (第5回)	展開	・オリンピックの3つの価値(Olympic Values:Excellence, Respect, Friendship)について:バンクーバー冬季大会開会式のIOC会長のあいさつから ・6人のオリンピック人へのインタビューからオリンピックの価値を考える:「オリンピックによってあなたの人生はどのように変わりましたか」 ・何を感じることができたか、IOCはなぜオリンピックにロールモデルとして期待しているのか

内容としてあげていた。これは他教科との関わりも大きく影響していると考えられる。対象校のカリキュラムでは高校1年生で「世界史」が必修であり、年度の終盤にあたるこの時期には生徒の古代に関する興味関心が高かったと考えられる。対象校は全国でも有数の進学校であるが自由な校風で、生徒の興味関心も幅広く、知的好奇心を刺激されることが動機づけにつながるような、対象校の特徴がうまく生かされたのではないだろうか。事前調査の結果通り、生徒の授業に対する反応も良く、充実した授業を行うことができた。オリンピックに関する授業を行う上では他教科と総合的に関わりながら進めることの必要性を感じさせるものであった。

単元全体を通して、計画通りに授業を進めた結果、それぞれの単元について取り上げたい内容が多く、時間が足りなかった。そのため生徒とのやりとりが少なく、単調な授業になりがちであった。一方で生徒自身の調査に基づいて生徒間のやりとりを促進できた授業もあった。さらに内容を精選して、生徒が知識を得るだけでなく、自ら考えることができるような授業の進め方の工夫が必要である。

2) 授業の成果の検証

授業の成果を検討するために授業後に毎回、質問紙調査を行なった。質問は (1) 授業を受

けて印象に残ったこと、(2) 授業を受けて疑問に思ったこと、(3) 授業を受けてもっと知りたいと思ったことをそれぞれ自由記述で記入させた。毎時間授業の最後の5分程度を調査に当てた。この質問紙調査から、授業で扱った内容に関して生徒がどのようなことに興味を持ち、どのようなことを身につけることができたかを探った。

(1) 第1回「オリンピック競技会」について

第1回の授業に関する質問紙調査の結果を表4に示した。「印象に残ったこと」では、授業中の生徒の反応のとおり、親・祖父母の世代の記憶に残るオリンピック、オリンピックで行われている種目に関する解答が多かった。競技種目については、2012年ロンドン大会から野球とソフトボールがなくなり、7人制ラグビーとゴルフが実施されるという話題に生徒は興味を示した。日本がメダルをねらえる種目がオリンピック種目からなくなること、競技種目の選考に関わるIOCの基準（オリンピック憲章で、競技の採用の基準は、「夏季オリンピックの競技は、男子では4大陸75カ国以上、女子では3大陸40カ国以上で広く行われている競技のみ。冬季オリンピックの競技は、3大陸25カ国以上で広く行われている競技のみ」とされている。）に、新種目があてはまるかどうかということへの疑問が多く出された。そのような状

表4 第1回「オリンピック競技会とは」質問紙調査の解答

印象に残ったこと		疑問に思ったこと		もっと知りたいこと	
解答	数	解答	数	解答	数
記憶に残るオリンピック	14	実施競技とその決定	9	開催種目の決定、採用基準	9
オリンピックでの実施競技と採用基準	13	IOC、NOCなど組織に関すること	5	オリンピック憲章	3
第1回大会から行われている種目	7	その他	9	IOC、NOCなど組織について	4
オリンピック憲章	4	当初陸上競技が女性に悪影響を及ぼすと考えられていた理由		オリンピックの開催で名前をつけたり、そのような影響をもっと知りたい	2
オリンピックアード	3	冬季は雪上、氷上のスポーツだけか		聖火	2
オリンピックズム	2	野球やサッカーはオリンピックよりも金儲けに使われる印象があるが、どのように行われているのか		その他	15
その他	12	どうしてオリンピックは4年おきなのか。選手の調整にこれくらいかかるのだろうか		オリンピックの出場条件はどのようなものか	
古くからオリンピックが行われていて、そこからいろいろと改良されて今のオリンピックができています 大会中の出来事		日本ではメダル獲得数の国別ランキングをよく見かけるのはなぜか、日本だけか		他にも心に残るエピソードを知りたいと思った	
メダル獲得数のランキングは禁止されていること		リュージュやボブスレーの競技人口。		オリンピック開催による国家の発展について	
コマネチ		ボブスレーやリュージュは何が難しいのか。ただ滑るだけならだれでもできるのでは		フェンシングが第1回から競技として続いていること	
夏季大会と冬季大会の違い		テコンドーはどんな競技か		オリンピックにともなう経済的な話	
古代オリンピックが以外にも人気だった	など	「近代五種」とは何か	など	オリンピックとクーベルタン	
	回答数55		回答数23	オリンピックとメディアの関係	など
					回答数34

況から、「疑問に思ったこと」では、採用される競技種目についての疑問が多かった。実施組織については授業中に時間を割けなかったため、疑問を持つ生徒が多かったものと思われる。「もっと知りたいこと」では、同じく競技種目についての解答が多かったが、オリンピック憲章について、東京大会の年に生まれた子供にオリンピックにちなんだ名前をつけた逸話なども生徒の興味を引いた。また、授業で扱っていない「聖火」に関することやオリンピックの出場条件などもあげられた。

(2) 第2回「日本とオリンピック」について

第2回の授業に関する質問紙調査の結果を表5に示した。この授業では東京大会（1964）の話題が中心であったため、円谷幸吉やヘーシク、東洋の魔女など東京大会で活躍した選手に関する解答が多かった。また、現在も身近に残る有形無形のレガシーについて、理解が深まったことがうかがえた。この授業を受けて、自分が東京オリンピックについてよく知らないということを認識した生徒もあり、今後の興味づけとしても意義があったといえる。「疑問に思ったこと」、「もっと知りたいこと」に関しては解答が多岐にわたり、カテゴリーに分類することが難しかった。それぞれ「東京オリンピック」と「2016年招致」、「経済効果」と「2016年招致」、その他に分けて解答をそのまま記載した。2016

年東京大会招致に関しては、授業の中ではあまり時間を割けなかったが生徒の関心が高いことがうかがえた。生徒の記憶に新しい話題であり、2020年大会の招致に関する話題性もあったと考えられる。オリンピックの経済効果についてももっと知りたいという解答が多かったことから、さまざまな機会をとらえて生徒の興味を保持せ、今後につなげることが重要であると考えられる。

(3) 第3回「古代オリンピック」について

第3回の授業に関する質問紙調査の結果を表6に示した。この授業では古代オリンピックで行われた競技について詳しく解説し、現在との違いを学習したため、「印象に残ったこと」に幅跳びや戦車競走、パンクラチオンなどの解答が多かった。また「平和の祭典」である由来として、「エケケイリア」（休戦協定）について学習したことから、それについての解答も多かった。女性だけの競技会が存在したこと、勝者への報酬はオリーブの葉冠であったことなども印象に残ったようだ。疑問としては、古代の選手たちの練習法や女性だけの競技会であるヘラ祭、休戦協定についてなど、さまざまな対象について疑問が挙げられた。「もっと知りたいこと」については、勝者に与えられたオリーブの葉冠、ヘラ祭、オリンピアのゼウス像に関わって授業で紹介した「世界七不思議」などが挙げ

表5 第2回「日本とオリンピック」質問紙調査の解答

印象に残ったこと		疑問に思ったこと		もっと知りたいこと		
項目	数	項目	内容	項目	内容	数
東京オリンピックで活躍した選手の話	11	東京	東京オリンピックのころの東京はどんな感じだったか	東京・札幌・長野オリンピックについて		5
オリンピックレガシーについて	7	東京	はだしの方が速いのだろうか	経済	オリンピックによって得られる経済効果	
円谷幸吉について	6	東京	東京オリンピックで活躍した選手は今何をしているのか	経済	オリンピックレガシーによって経済は上に行くのだから	
一枚一國運動について	4	オリ	東京オリンピック開催はなぜ20年以上も早く決まっていたか		東京にオリンピックを招致することのメリット・デメリット	
自分が東京オリンピックのことをあまり知らなかったこと	3	ンピ	体育の日が10月10日でなくなったのはなぜか。意味がない。		招致費用150億円はもし招致に使わなかったらどんなことに使えるほどのお金だったのか	
国立競技場が時代遅れになっていること	3	ック	円谷幸吉について調べようと思った	招致	オリンピック招致の利点と欠点	
2016年オリンピック計画	3	他	東京ではオリンピック招致に賛成する人が少ないのになぜ招致活動ができるのか		日本のオリンピック招致のこれからについて。長崎や広島での開催計画	
ヘーシク	2	東京	東京オリンピックの招致にかかるお金		2016年以降のオリンピックの開催予定地	
過去のオリンピック	2	招致	個人的に東京オリンピックの招致に反対だが、もし東京で開催となったら施設などはどうなるのか（増やす必要があるのか）	その他		13
今と昔では意識も含めているんなことが違っていったということ	2	オリ	オリンピックを日本でやった方がいいかどうか、専門家はどうか考えているか		陸上など計測の仕方の変化について	
その他	4	ンピ	オリンピックの開催によってどれだけの経済効果があるか	その他	セバタクローとかカバティ	
日本人のメダルが思ったよりも古くからあったこと		ック	オリンピックに出場した選手に選手村のことが聞きたい	その他	オリンピックのいろいろな変わった競技について	
どのオリンピックでも日本人が活躍していると思うようになった		その他	冬季オリンピックが始まったきっかけは何か（古代オリンピックでもやっていたのか）		一枚一國運動について	
セバタクローやテコンドーなどまったく知らないスポーツがオリンピックで行われていること		他	日本でもいくつか有名なスポーツの大会が開催されているはずなのになぜこんなにスポーツ施設の設備が整っていないのか		結局2016年にオリンピックは招致されないが、環境改善計画はどうなっているのか	
	回答数47		現地開催だとその国の記録は伸びるものなのか		日本の選手育成について	
				回答数33		回答数26

られた。世界史の授業で学んだことと関連付けて学んでいる生徒も多く、調査でも生徒の興味の対象が多岐に渡った。また現在との違いの中で、女性のスポーツや社会的な役割について関心を持った生徒が多く、すべての質問に対して「ヘラ祭」が挙げられていた。1時間の中に多くのことを紹介したため、1つ1つの内容が深められず、生徒としては疑問が残ったり、かえって関心が高められたりした結果となった。古代の競技の行い方を学習して「実際にやってみた

い」という反応も多く寄せられた。
 (4) 第4回「オリンピックとフェアプレイ」について

第4回の授業に関する質問紙調査の結果を表7に示した。オリンピックで求められるフェアプレイについて学習したこの授業では、フェアプレイに関するさまざまなエピソードを紹介し、ベルリン大会（1936）の陸上競技・棒高跳の友情のメダルや、ユネスコ国際フェアプレイ賞などが印象に残ったこととして挙げられた。

表6 第3回「古代オリンピック」質問紙調査の解答

印象に残ったこと		疑問に思ったこと		もっと知りたいこと	
項目	数	項目	数	項目	数
古代オリンピックの競技	15	古代の選手たちの練習法	3	冠の作り方、植物の意味	4
オリンピックの始まりと終わり(エケケイリ)	9	休戦協定を相手側はやすやすと受け入れ	2	ヘラ祭について	3
幅跳びについて	7	ヘラ祭について	2	世界七不思議について	2
全裸で競技を行うこと	5	その他	22	優勝者に贈られた詩について	2
古代オリンピックと現代のつながり	4	スタディオンが192mになった理由		オリンピックにまつわる伝説について	2
女性だけの競技会もあった	4	世界史と照らし合わせながら、オリンピック成立の背景や影響を知りたい		当時のオリンピックの観客の様子	2
古代オリンピックが1200年も続いていたこと	3	ゼウスの祭壇に犠牲をささげたところだが、これは血を流していないのか		古代オリンピックの会場(競技場)について	2
オリーブと月桂樹	2	金銀銅メダルはいつから渡すようになったか。なぜ		その他	14
世界七不思議	2	古代オリンピックの有名な選手の名前がわかるのか		古代オリンピックの最後の方の競技について	
パンクラチオンのルール	2	円盤投げの起源は何か		古代オリンピックの前に同じような祭典があったか	
その他	6	今の競技で古代オリンピックの競技をもとにできた競技はあるか		幅跳びの錘が見てみたい	
・古代ギリシアの人も理想的な身体を手に入れたかったということ		月桂樹やオリーブ以外に冠として使われたセロリや松にはどんな意味があるか		当時の人と比べて現代の人のムキムキ具合はすごいのかということ	
・思った以上にスポーツとして成立している競技が多いこと		オリンピックの観戦者はどのように選手を見分けたか		オリンピック以外の古代の競技会について	
・競技種目が戦いに関係していて、この時代の意識の方向を知ったような気がした		オリンピックは聖なる祭典なのにパンクラチオンなどで死者が出てよかったのか		豆知識的なことがわかったので、もう少し掘り下げて考えたい	
	回答数59		回答数27		回答数30

表7 第4回「オリンピックとフェアプレイ」質問紙調査の解答

印象に残ったこと		疑問に思ったこと		もっと知りたいこと	
項目	数	項目	数	項目	数
有森の活動	5	ドーピング	13	ドーピング	15
ドーピング	12	八百長について	2	フェアプレー賞の事例	5
フェアプレー賞	6	友情のメダルはどのように作ったか	2	有森のような他の例	4
友情のメダル	13	フェアプレー	3	その他	8
ラシュワンのフェアプレー	7	その他	7	クーベルタンはどんな人か	
その他	4	ボルボトはなぜ政権を獲得し、維持することができたか		血液ドーピング	
勝つために薬物を投与する人、フェアプレーで勝利を逃す人、いろいろな人がいること		ラシュワンはなぜ不利な相手に負けてしまったか		最近フェアプレー賞をとった日本人はいるか	
参加することに意義がある		ルールの範囲内でもフェアプレーの精神は必要か		選手が望まないのにドーピングをさせられてしまっ	
女子の100mで1988年以前の記録がいまだに世界記録であること		棒高跳びのルール		ボルボト	
たたえあう態度		有森のような他の例		八百長について	
	回答数47	正々堂々の意味		薬物の影響	
		不正防止の対策		ルールが細かいスポーツとフェアプレー精神に任	
			回答数27		回答数32

また、ドーピングに関しては十分な時間が取れないため別に時間を設けて授業を行い、今回は紹介する程度にとどめたが、生徒の関心は高く、「疑問に思ったこと」、「もっと知りたいこと」でも多く挙げられた。オリンピックの国際貢献・社会貢献の活動についても関心が集まった。フェアプレイの精神を日常に活かすためにはどうしたらよいかを考えさせたが、「スポーツの場面でルールを守る」や「テストで不正行為をしない」などの解答にとどまり、日常のさまざまな場面への広がりを考えさせることはできなかった。

(5) 第5回「オリンピックの価値：Olympic Values」河合季信・筑波大学准教授のお話し

第5回の授業に関する質問紙調査の解答を表8に示した。

6人のオリンピック（ショートトラック）に対する講師自身によるインタビューから、オリンピックの価値について考えさせることが授業の中心であった。インタビューそのものとその内容、オリンピックが人生に大きな影響を与えるということが印象に残ったこととして最も多い解答であった。ショートトラックというなじみの薄い競技に関しても関心が寄せられ、接触の激しいレースの中で最後まで立ってゴールできた男（last-man standing）や競技のルールにつ

いて、疑問やもっと知りたいことにも挙げられた。講師自身がオリンピックに出場して変わったことや、より具体的な選手村の様子などをもっと知りたいことに挙げる生徒が多かった。バルセロナ大会でのIOC ジャック・ロゲ会長のあいさつから「選手は青少年のロールモデルである」とのメッセージの紹介や、オリンピックへのインタビューなどで占められ、講師自身に関することに触れる時間がなかったため、それに関する要望が授業後に挙げられた。

3) 授業後のレポート「もっと知りたいこと」

後期の課題の一つとして、授業を通して「もっと知りたいと思ったこと」を調べてレポートを作成させた。生徒が取り上げたテーマの数を表9に示した。古代オリンピックに関するものが最も多く、その詳細はオリブの葉冠、競技、神話、始まりと終わりなどであった。ドーピングについて調べた生徒も多く、関心の高さがうかがえた。その他にもメダルの変遷をすべての大会について調べたり、身近な大会の選手のマナーの問題など取り上げたりする生徒もおり、自分なりの興味を深めさせるために有意義であった。

5. 結論と今後の課題

本研究では高校生を対象に、通常の授業カリ

表8 第5回「オリンピックの価値」質問紙調査の解答

印象に残ったこと		疑問に思ったこと		もっと知りたいこと	
項目	数	項目	数	項目	数
メダリストのインタビュー	10	ショートトラックの競技について	5	オリンピックの引退後	4
オリンピックは人生の大きな方向転換になること	10	先生自身はメダルを取って変わったか	5	オリンピックのさまざまなエピソード	4
last-man standing	9	選手の引退後について	4	選手村について	4
国が違っても選手同士でつながれること	4	オリンピック教育は国によって違う	3	オリンピックの価値について	3
オリンピックとしての自信に満ちた姿	3	オリンピックと世界選手権の違い	3	選手間の交流	3
オリンピックが競技引退後もオリンピックに関わっていること	2	選手は英語が話せるのか	3	オリンピックに対する考え	3
ロールモデルの話	2	自国以外のコーチをすることについて	2	ショートトラックのルール	3
ショートトラックという競技	2	ロールモデルとはなにか	2	オリンピック前の調整法	2
河合先生のオリンピックに対する熱意	2	活躍できなかった人はその後どうなるか	2	メダルを取れなかった人のその後	2
オリンピックバリエーション	2	その他	13	ロールモデルについて	2
その他	8	Respectは具体的にどういうことか		その他	9
選手だけがオリンピックに関わっているのではないということ		今はどういう立場で外国のコーチや選手と関わることが多いか		オリンピックの責任について	
どの選手もオリンピックは素晴らしいものであると考えていること		オリンピックではスポーツの技術だけでなく人間性も試されるということか		オリンピックでしかできない経験	
friendshipがわからなかったが、インタビューを聞いていてわかってきた		負けたらもう出たくないと思いがすが、何がオリンピックへと駆り立ててるのか		河合先生自身のことが聞きたかった	

回答数 54

回答数 42

回答数 39

キュラムの中に位置づけられた「体育理論」の授業で行うことのできる、オリンピック教育のモデル指導案を作成した。指導案づくりでは研究者と教育現場を結んで内容を検討し、事前調査によって生徒の興味関心を反映することができた。その指導案をもとに高等学校1年生を対象に5回の授業を行い、それぞれの授業について授業の成果を検討した。これらにより、オリンピック教育を専門としていない教師が実施可能な、オリンピック教育の授業モデルを提案することができた。

今後の課題として、以下のようなことが考えられる。

1) 実技などの体験的学習の導入

本研究で行った指導案では1つの指導領域を1回の授業で行う計画だったため、多岐にわたる指導内容を50分に納めざるを得ず、1つ1つの内容を深めることができなかつた。そのため、生徒たちに考えさせたり話し合わせたりする時間が取れず、講義形式が多くなつた。生徒に課題を与えて、調べてきた「親・祖父母の世

代の記憶に残るオリンピック」については、短時間ではあるが発表やディスカッションをすることができ、生徒にも好評であった。「古代オリンピック」の回の、古代に行われた競技種目については、「やってみたい」という感想が多く寄せられた。今後は知識を得る場面と考える場面、実際にやってみる場面を授業の中に設定し、より深く理解できるように工夫すべきである。

2) 発表機会の提供と活動の展開

授業後に後期のレポートとして、授業で疑問に思ったことから一つを選んで詳しく調べさせた。授業を通してもっと知りたいと思ったことを自分なりに調べることで、授業後に知識を深め、興味関心を広げることができ、生徒たちも楽しんでこの課題に取り組んでいた。提出されたレポートは各自の興味関心に基づいてよく書かれており、興味深いレポートが多かつた。今後の展開として、興味関心の近い生徒でグループを作り、グループレポートを発展させて、校内に展示したり、文化祭や学校紹介の場で発表したりするなどが考えられる。他にも生徒の関心の高かつた「一校一国運動」を「一組一国運動」のように学校全体で展開することも可能と考えられ、ロンドンオリンピックに向けて検討していきたい。

3) 他教科との連携

古代オリンピックの授業では世界史を1年次で学んでいることもあり、生徒は世界史と関連付けて授業を受けていた。オリンピック教育は、教科としての保健体育にとどまらず、他教科と連携した学習の可能性があり、教科を越えて学校生活の様々な機会をとらえて指導することは、学習成果を深めることになる。古代オリンピックに関しては服装や用具などにも特徴があり、実践的な展開が考えられる。例えば家庭科と連携して、簡単にできる古代の衣装を作ってみる、生物や地理と連携して、古代のオリンピックの勝者に与えられたオリーブやその他の競技会で使用された葉冠と気候風土とのかかわりなどを調べる、体育実技に発展させて、古代の様式で幅跳びややり投げを中心とした競技会を開催するなど、多くの連携の可能性がある。今後は他教科との連携も含めて指導内容を精選したり、今回取り上げなかつた内容を広げたりして、

表9 オリピックについて「もっと知りたいこと」レポート課題数

タイトル	数
古代オリンピック	11
オリーブの葉冠・神話・競技・始まりと終わり・今との違い・なぜ裸だったか	
ドーピング	7
オリンピックの競技種目の変遷と選考	4
オリンピックレガシー	3
選手村	2
フェアプレイ	2
クーベルタン	2
2016年東京招致	2
その他	6
歴代オリンピックのメダルデザイン	
オリンピズム	
オリンピックへの参加はどうやって決まっているか	
国保選手腰パン問題	
IOC会長ってどんな人？	
NOC	

回答数 39

さらなる指導案の改善を図り、体育理論におけるオリンピック教育の実践を広げて行きたい。

参考文献

- Binder D. (1995) *Keep the Spirits Alive; You and the Olympic Games; A Handbook for Educator. A Publication of the IOC Commission for the International Olympic Academy and Olympic Education.*
- 文部科学省 (2011) : スポーツ基本法 (平成 23 年法律第 78 号) (条文)
- 岡出美則、高橋健夫 (2002) : オリンピック教育の概念と実践の展開. 近代オリンピックの教育的意義に関する研究. 平成 11 ~ 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B2) 研究成果報告書. 研究代表者 真田久、pp4-57, 2002.
- 真田 久、岡出美則、田原淳子 (2009) : 未来と結ぶオリンピック～勇気・地球・共生～. オリンピック学習読本 (高等学校). 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会, 図書印刷株式会社.
- 友添秀則 (2007) : 日本の体育教科書におけるオリンピック記述に関する研究. オリンピック教育の実践に向けた教材開発と授業モデル形成に関する研究-東アジア, オセアニア諸国と関係して-. 平成 15 ~ 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 A) 研究成果報告書, 研究代表者 真田久、pp8-15, 2007.
- 財団法人日本オリンピック委員会編 (2007) : オリンピック憲章 Olympic Charter. ETHICS2007